

5.3 科学研究費など外部資金

- a. 研究課題
- b. 研究代表者
- c. 金額

(1) 日本学術振興会

(1.1) 科研費新学術領域 (研究領域提案型) 太陽地球圏環境予測: 我々が生きる宇宙の理解とその変動に対応する社会基盤の形成 (代表: 草野完也)

(1.1.1)

- a. A02 太陽嵐の発生機構の解明と予測
- b. (代表) 一本潔
- c. 平成 27 年–31 年 総額 125,400,000 円 (平成 28 年度 43,810,000 円)

(1.1.2)

- a. A04 太陽周期活動の予測とその地球環境影響の解明
- b. (代表) 余田成男、(分担) 浅井歩
- c. 2016(平成 28) 年度: 850,000 円 (浅井分配分)

(1.1.3)

- a. A04 太陽周期活動の予測とその地球環境影響の解明
- b. (代表) 余田成男、(分担) 上野悟
- c. 2016(平成 28) 年度: 3,000,000 円

(1.1.4)

- a. コロナ磁場モデリングに最適なスペクトル線の選定
- b. 阿南 徹
- c. 1,950,000 円

(1.2) 基盤研究

(1.2.1) 基盤研究 (B)

- a. 太陽白色光フレアの解析に基づく、スーパーフレア星の磁気活動機構の解明
- b. 柴田一成
- c. 平成 28 年–30 年 (総額 13,600,000 円) 平成 28 年度: 6,600,000 円

(1.2.2) 基盤研究 (C)

- a. 地表層補償光学に基づく超広視野太陽像回復の効果
- b. 代表: 三浦則明 (北見工業大学) 分担: 上野悟
- c. 100,000 円

(1.3) 若手

(1.3.1) 若手 (B)

- a. 太陽衝撃波の観測的研究による、コロナ質量放出の発生源の解明
- b. 浅井歩
- c. 平成 27 年–29 年 平成 28 年度: 700,000 円

(1.3.2) 若手 (B)

- a. 多波長同時偏光分光観測で明らかにする太陽彩層大気の磁気流体波
- b. 阿南 徹
- c. 平成 27 年–29 年 総額 4,290,000 円 (平成 28 年度: 390,000 円)

(1.4) 特別研究員 奨励費

(1.4.1) 特別研究員 奨励費 (DC)

- a. 太陽面爆発現象における速い磁気リコネクション発生機構の研究
- b. 高橋 卓也
- c. 900,000 円

(1.4.2) 特別研究員 奨励費 (DC)

- a. 相対論的な領域を含む磁気駆動されるフレア現象の統一的な理解
- b. 竹重 聡史
- c. 1,200,000 円

(1.4.3) 特別研究員 奨励費 (DC)

- a. スーパーフレア星の観測から迫る、太陽型恒星の磁気活動とダイナモ理論
- b. 野津湧太
- c. 1,200,000 円

(1.5) ひらめきときめきサイエンス ようこそ大学の研究室へ KAKENHI

- a. 太陽の謎を探る
- b. 柴田一成
- c. 344,000 円

(2) 京都大学

(2.1) 生存圏ミッション研究

- a. IUGONET を通した Ca II K 太陽彩層全面画像データベースの公開とそれによる太陽活動長期変動研究
- b. 上野悟
- c. 350,000 円

(2.2) 全学経費

(2.2.1) 設備整備経費

- a. 飛騨天文台ドームレス太陽望遠鏡の観測制御装置の更新
- c. 83,500,000 円

(2.2.2) 特別協力経費

- a. 理学研究科国際連携拠点における世界展開加速化促進事業
- c. 2,400,000 円

(3) 名古屋大学太陽地球環境研究所

(3.1) 研究集会

- a. 太陽フレアデータ解析ワークショップ
- b. 浅井歩 (代表)、増田智、塩田大幸
- c. 347,000 円

(4) 国立天文台

(4.1) 共同開発研究

- a. スペース太陽観測用の彩層偏光面分光装置の開発
- b. 永田伸一
- c. 3,700,000 円

(4.2) 委託研究 (大学支援)

- a. 太陽観測を通じたペルーとの天文学学術研究交流:
分光観測装置とコロナ観測装置の整備
- b. 柴田一成
- c. 500,000 円

(5) その他

(5.1) 第9回資生堂・女性研究者サイエンスグラント

- a. 宇宙天気の影響源である、太陽プラズマ噴出の発生機構の解明
- b. 浅井歩
- c. 1,000,000 円